有明町教育委員会埋蔵
文化財調査報告書第６号

# 大野原遺跡の一部地目変更に伴う研究調査報告

昭和61年６月30日

大野原遺跡調査団
有明町教育委員会

# 大野原遺跡の一部地目変更
# に伴う研究調査報告

# 序

有明町大野原遺跡は，有明海に面した標高200mの大野原台地にあり，早くから弥生土器や石器などの遺物が農耕作業時に出土され確認調査が考えられた。

この度，有明町では大三東，湯江の合併30周年記念事業の一つとして有明町史編さんが計画され，事業の一環として遺跡保存対策も含めて大野原遺跡の発掘調査を実施することになった。

町史編さんに当たっては古代・中世時代の解明は極めて大切なことであり，幾千年，幾百年の流れの中で先祖の人々の生活の様子，文化の跡をたどり歴史を知ることは極めて意義深いものであります。

調査に当たっては，昭和59年度より昭和60年度に渡り古田先生，諫見先生をはじめ多くの人のご協力により完成いたし，報告書が出来あがったことは誠に喜ばしいことであります。

この度の遺跡調査に当たられた，諸先生の熱意とご苦労に深く感謝申し上げると共に，この報告書が永く保存活用されることをご期待申し上げたい。

昭和61年6月30日

教育長　菊　池　程　義

# 目　　次

**挿　　図**

第１図　大野原遺跡の位置図（11の地域）（有明町遺跡地図，昭和59年９月作製，一部昭和60年12月補足）……5
第２図　４号甕棺出土状況実測図……6

１．調査地と遺跡の概要（挿図第１図）……4
２．地層（各トレンチ地層断面図，写真図「１～55」参照）……4
３．遺構（地層図，写真図，挿図第２図）……6
４．遺物（実測図，写真図56～64）……6
５．特殊遺物（写真図64，65）……6
６．古代社会にみる貝の信仰……7
７．製鉄と鉄滓（遺物実測図，104，70）……8
８．結　　び……8
大野原遺跡調査団組織表……10
写真図（１～70）……11

**附　　図**

１．調査地の附近との関係図……29
２．トレンチ設定図……29
３．各トレンチ断面図……30
４．土器実測図……32
５．石器実測図……39

# はじめに

本調査の実施は，昭和60年の年末師走のことで，誰しも心せわしい時であった。而も天候の不順な時で前半では小雨と曇りの日が多く，後半では15日以降３日も小雪に見舞われる始末であった。こんな悪天候の条件の中で，柴原武義，吉本昇，有馬テツ子，岸田ヨシ子，森下キミ子，松本キヲ，早稲田愛子，松本一人，松本明美，井上房子，上田秋代の諸氏には発掘の労を賜わり，起稿に当たって厚く感謝の意を表したい。また整理に当たっては，林田みどり，高原紀子両氏の協力を得た。併せて感謝申し上げたい。

昭和61年６月30日

古田正隆

# 大野原遺跡の一部地目変更に伴う研究調査報告

古　田　正　隆

## 1．調査地と遺跡の概要（挿図第1図）

大野原遺跡は長崎県南高来郡有明町大三東（おおみさき）にあって，境の松川に沿った雲仙山系の山麓の北東に延びる，有明海に面する台地の端部に位置している。

この台地の上部は標高170メートルから200メートルの舌状台地で，二ツ石遺跡を含めて，国見町百花台と連形する旧石器文化遺跡の一端であり[注1]，その下方に当たるのが当遺跡地で，(北北東)大野原は標高略々20メートル内外の台地であるが，昭和34年国見高等学校社研究が，この地で耕作者が作業中かめ棺の出土に出会ったことを聞知し，その周辺の発掘を昭和44年に実施[注2]，この地が略々弥生文化期の埋葬地であることを確認，昭和59年には有明町で，町史編纂の一環として，遺跡保存対策もふくめて第2次の大野原調査を実施，数基の土壙墓，かめ棺墓3基，支石墓に類似する巨石蓋土壙墓等を発見[注3]，更に昭和60年8月には国見高校社研部が中心となって，前回同様調査団を編成発掘調査を実施[注4]，埋蔵遺跡は大野原全域に拡がることを確認，更にこの台地とつらなる甘木台地では，弥生文化期の支石墓の所在が確認された[注5]。従って大野原台地は大陸文化をとり入れた厚葬の支石墓を頂点に，弥生文化から古墳文化期に及ぶ埋葬地である可能性の，強いものであることが判断出来るのである。

調査地は大野原台地の北側の一区域であるが，かつてこの地は公民館，有明町商工会議所，テニスコート，民家の建立等による地表の削平等がおこなわれ，文化財保護法の認識が浅かった時代といえ，精査の伴わなかったことは残念なことである。

## 2．地層（各地層断面図，写真図「1～55」参照）

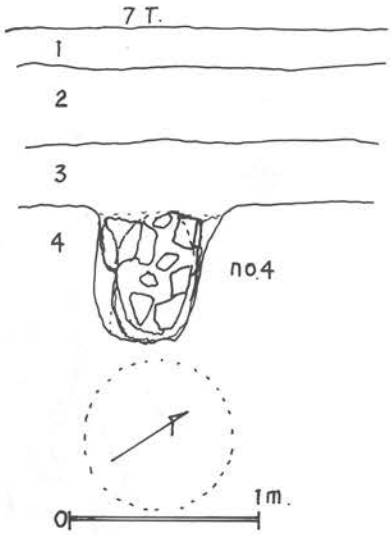
遺跡地（調査地）の地表下破壊は予想以上に進行しており，表土下約60センチ位まではほぼ撹乱され，適確な状況を把握することは困難であった。一般的ではあるが概要として1層は黒褐色表土，2層は黒褐色土，3層は黒色火山灰性土，4層は褐色土（若干の砂質分を含む)であり，(1T－1，3，2T－1，3はかつての相撲場であったため，地層は表土が盛り土で若干異なる）弥生文化の生活面は，遺物の包含状況よりみて3層であった。

1層は平均10～15センチあり，2層は30～50センチ，3層は20～30センチ程度の厚さがあり，4層は粘土層となるのであるが，1T－5，2T－7，3T－3の如く薄い異層が

| NO | 名　称 | 時　代 | NO | 名　称 | 時　代 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 戸田向原遺跡 | 縄・弥 | 23 | 上一野遺跡 | 縄　文 |
| 2 | 釘崎城跡 | 中　世 | 24 | 灰ノ久保遺跡 | 〃 |
| 3 | 清水山遺跡 | 縄　文 | 25 | 礫石原遺跡 | 〃 |
| 4 | 森岡遺跡 | 〃 | 26 | 久原遺跡 | 縄　文 |
| 5 | 二ツ石遺跡 | 〃 | 27 | 甘木一丁畑 | |
| 6 | 妙法塚遺跡 | 弥・古 | 28 | 山ノ内上横穴古墳 | 古　墳 |
| 7 | 中田遺跡 | 縄　文 | 29 | 温泉神社台地(押型文) | 縄　文 |
| 8 | 大野浜城跡 | 中　世 | 30 | 六人道横穴古墳 | 古　墳 |
| 9 | 平山古墳 | 古　墳 | 31 | 国土神社台地 | 縄　文 |
| 10 | 大野城跡 | 中　世 | 32 | 東空閑城跡・埋蔵地 | 〃 |
| 11 | 大野原遺跡 | 縄・弥 | 33 | 一本松 | 縄　文 |
| 12 | 甘木遺跡 | 弥・古 | 34 | 拂山横穴古墳 | 古　墳 |
| 13 | 上松高野遺跡 | 弥　生 | 35 | 庄司屋敷 | 中　世 |
| 14 | 下源在高野遺跡 | 縄　文 | 36 | 釘崎城 | 〃 |
| 15 | 上源在高野遺跡 | 〃 | 37 | 大野浜城 | 〃 |
| 16 | 東空閑城跡 | 中　世 | 38 | 大野城 | 〃 |
| 17 | 才木遺跡 | 縄　文 | 39 | 東空閑城 | 〃 |
| 18 | 小原下遺跡 | 〃 | 40 | 小原下B地点 | 縄　文 |
| 19 | 小原上遺跡 | 〃 | 41 | 靭所在地(吉田宅) | 古　墳 |
| 20 | 松尾遺跡 | 古・奈良 | 42 | 塔ノ鼻横穴 | 〃 |
| 21 | 山ノ内遺跡 | 〃 | 43 | 国土神社裏横穴 | 古　墳 |
| 22 | 一野遺跡 | 弥・古 | 44 | 甘木支石墓 | 弥　生 |

第1図　大野原遺跡の位置図（11の地域）
（有明町遺跡地図，昭和59年9月作製，一部昭和60年12月補足）

その中に入るところもある。このような異なりは旧地主の差で，作物の関係，深耕機の使用等の別であり，甕棺埋葬でも上半が破壊されていたり，土壙の撹乱がある事実と合致し，これらの変化は近年になってみたものであろう。



第２図　４号甕棺出土状況実測図

### ３．遺構（地層図，写真図，挿図第２図）

５トレンチの３において，３層下部より４層上部に掘りこみ，口を上に向けて埋置された１号，２号の２個の甕棺が発見されたが，１号は上半が，２号はそのほとんどが破壊された形で発見された。これらはいずれも３層から４層上部に達する機械深耕による破壊であろう。いずれにも弥生後期のものとみられ，４トレンチ６の西北隅で直径30センチ余のピット状の形のみ残す深鉢状の，伏置埋棺跡１基（３号，ほとんど破壊された破片が２～３点残っていた）の発見があり，７トレンチの北側断面に甕形土器の伏置埋葬棺（４号）１基（これもほとんど破壊されていた，挿図第２図）（１トレンチ８に伏置深鉢棺「写真図７，８」）の遺構があった。これは死産児か早生児の埋葬らしく，主軸を南北とした若干斜位形であり，これも３層から４層上部に及ぶ埋葬であった。（上部面の器面が破壊にあっていた）

### ４．遺物（実測図，写真図56～64）

遺物は146－１の黒色研磨の三万田式土器[注6]，146－２，112－４，（研磨土器）131の条痕土器等の御領式，黒川式等の縄文後晩期土器片若干を含む他は，弥生中期末より同後期のものが大部分であり，古墳期の遺物としては47，102，184，185の如き須恵器，103，21（土錘）等の土師器，143の土鈴片，また104，70の如き鉄器（釘と釣かも知れない）等の出土があり，石器は131－１，６－１，１－１，158－４，112－３等の打製石斧が出土し，これらの石器は必ずしも弥生遺物とすることは出来ないかも知れない。また135，50の如き陶器さえも混入をみた。

### ５．特殊遺物（写真図64，65）

写真図64に示した鮑は５Ｔ－１の土壙状の横の３層下部より出土したものである[注7]。昭和60年頃夏この遺跡の南端に当たる地区を調査した際，（前出注４）深さ30センチのピット内に真牡蠣，シシ貝，巻貝などの詰った遺構が発見され，その中に鯨骨，鹿の骨片，魚骨，

石鏃等が混入していた[注8]。これより先昭和35年国見町神代筏遺跡の第一次調査の時も，合口土器埋葬施設の横に経20センチ，深さ約20センチ程の貝殻の詰ったピット一個が発見され，内部には成人大腿骨の一部，十字石器一個等が入れられ，近海の岩礁生息小貝殻を中に充塡していた[注9]。

大野原遺跡に近い一野（ひとの）遺跡でも文化年代は降るものであったが，二枚貝，巻貝等のそれぞれ分類されたピットが埋葬に伴い発見されている[注10]。また近くの島原市景華園の弥生甕棺埋葬地でも，甕棺近くに若干づつの貝殻が発見され，貝が埋葬と関係あることは五島福江島の調査でも確認されていたことであった[注11]。再生を主とする貝の信仰は古く，今でも「鮑」の貝殻を家の入口や屋根等につりさげて置く風習は所々に残り，一種の魔除けとしたり，火事にあわない為の「水」神を呼ぶためのものとされるが，本調査地では，埋葬のわきに鮑の貝殻一個の発見があり，単に魔除け的なものではない古代信仰の部分が顔を出したのである。(詳細は前出注７を参照されたい)

### ６．古代社会にみる貝の信仰

古代社会の思想観は対応観で，山に海，天と地といったように，これらから貝の供献について想像出来ることは，男性形を表わす巻貝の供献は女性の死であり，二枚貝の供献は男性の死者埋葬に対する一つの再生希求観で，一野遺跡で見るように偶然性かも知れないが，必ずどちらかが多いのが常であった。いずれにせよ「貝」の供献が埋葬に伴う事実は間違いないことで，後世に観念にみる魔除け的なものより，再生希求観の強いものであることは間違いなく，貝の棲息は地中であり，地中よりはい出す行動は再生と位置づけ，現実に島原半島の某所では，サヨ媛の下に巻貝の石造物があり，(写真図66，67)道辻に立てられ一つの道祖神を形成しているものをみる。また墓地，神行地（祭りの御輿の留まる所)，家の周辺等には，盆，正月等は貝の混った海岸砂をふりまき，清浄を保つ風習が残り今でも続いている。(神戸地区でも屋敷境の石垣を貝で飾る風習が残っており，中国墓地では白色の礫石を敷きつめている)

三島格氏の報告によれば[注12]，石棺屍床にサンゴを敷いた例は天草，維和第11号，沖縄木綿原第２，３号が知られ，覆石墓の覆石上又は覆石中に置いた例は島の峯，田ノ脇で知られ，屍体の周囲にめぐらしたり，上部に積石状に重ねておいた例は広田にあり，同地には集骨群の石囲や底石に使用したことも知られている。また積石墓の積石に使用した例は沖縄，木綿原，奄美，小湊町の遺跡にあり，現在島原半島の海岸砂を使う清浄，除魔の信仰と同じである。

九州の古墳石室に貝を置いたり，石棺床に貝を敷く例は三島氏の報告にもあるが，一野遺跡はそれに当たるといえ，本遺跡の貝の供献（弥生中期)，筏遺跡（国見町神代，縄文後

晩期）でもそれが認められ，三会景華園弥生中期遺跡でも貝の埋葬供献は同様である。

### 7．製鉄と鉄滓（遺物実側図，104，70）

70は6T－2で表土下80センチの3層中より出土で，104は4T－8の表土下70センチの，左同様3層中よりの出土である。これらと関連して，3T－1では表土下40センチの2層より1個（資料参考11），3T－3表土下20センチ2層中より1個（資料参考12），6T－2で表土下40センチ2層中より1個(資料参考20)，5T－3で表土下40センチ3層上面で1個（資料参考22），その他1個（3T－3では－50センチ）等の出土があったが，これらは上部深耕による撹乱が平面的に（概様として地層内部的に）みられ，文化年代推定には資料不足である。

かつてこの地域には古い製鉄遺跡が調査され[注13]，調査地の上部（西方）約300メートルの地域は1丁畑と呼ばれ，約50,000平方メートルの広さに亘って鉄滓の分布がある。その一部には伝承として鍛冶跡といわれるところがあり，五輪の残欠が置かれ石囲の遺構が残っている。これらから判断出来ることはこの地は古来から砂鉄が多く，それが雲仙山信仰に基づく山岳修験者によって引きつがれた製鉄技術となって，江戸時代には地域的な一つの産業形態を生みだしたものではなかろうか[注14]。いずれにしても，実測図に示す104は釘なのか，70は釣針なのか今直ちにここで決定しがたいが，104が釘とすれば，島原半島布津町木場原弥生木棺で類似品の出土例があり[注15]，70の如き釣針の出土は，有明海周辺の他県遺跡では弥生に出土例はあるものの，島原半島を含む近接遺跡では発見例をみないところである。（写真図44は104の出土状況，同18図は鉄滓の出土状況）

### 8．結　　び

今回の調査は附図1に示す地目変向地で，附図2に示すトレンチをこの地に設定，昭和60年12月4日より同23日に至る20日間の調査を実施，その間250m²の面積を発掘したのであるが，夏期に実施した調査でも報告した通り，この地一帯は大三東（おおみさき）午蒡の特産地で，特に近年は午蒡掘り作業も機械化され，トレンチャーは最高1.20mまでの深耕が可能であり，地層の撹乱がおこなわれ，遺跡地としての生活面，或いは埋葬等の遺構はその大部分が破壊にあい，これらの現象はこの地区の特色といえるかも知れない。特に埋葬遺構の破壊は道義的にも儀礼的にも，或いは刑法の立法の主旨に反する点でも非難さるべきで，文化財保護法上の対策善処を強く要望したいものである。

### 註　　解

1．和島誠一，麻生優「島原半島百花台遺跡の調査」，日本考古学協会38年度大会研究発表

要旨，昭和38年，麻生優他「日本の旧石器文化」，1975—11，長崎県文化課「県立百花台公園区域内遺跡分布調査の結果について」昭和55年11月，同志社大学考古学研究室，国見高等学校，国見町教育委員会「百花台1982第4次発掘調査概報」1983—3，長崎県文化課「県道国見雲仙線改良工事に係る埋蔵文化財（百花台遺跡）の試掘調査の結果について」1983—4，百花台遺跡発掘調査団，「百花台遺跡昭和58年度発掘調査」旧石器考古学，27，1983—11，その他省略。

2．長崎県立国見高等学校社研部「有明町大野原の研究」社研部報7号，昭和44年。

3．有明町教育委員会，大野原遺跡調査団，「大野原遺跡調査概報」有明町埋蔵文化財調査報告第2号，昭和59年

4．有明町教育委員会，大野原遺跡調査団「昭和60年度—大野原遺跡発掘調査概報—」，有明町埋蔵文化財調査報告第3号，昭和60年11月。

5．有明町大三東戊，1729番地，島田久喜の「遺跡発見届」，昭和61年1月14日，内部主体は甕棺で，その上に巨石を乗せたものである。

6．大野原遺跡では少ない遺物であるが，60年8月の調査でも一片の出土があった。前出4。

7．古田「貝の埋葬供献について」島原風土記第3号，島原歴史懇話会刊昭和61年3月20日

8．前出4。

9．古田「筏遺跡発掘調査報告」長崎県立国見高等学校社研部，国見町教育委員会，昭和44年3月

10．長崎県有明町教育委員会「有明町松尾遺跡緊急調査概報」1978年9月28日，

11．長崎県五島遺跡調査団「長崎県五島福江島遺跡調査概報」1962年五島遺跡調査団，九州考古学17，昭和38年

12．三島格「サンゴと貝—南島葬物覚書—」南島考古第5号，沖縄考古会，1977年12月

13．古田「小原下遺跡報告（第一次発掘調査—長崎県南高来郡有明町大三東に所在する—」長崎県立国見高等学校刊，昭和42年5月

14．「上乗遺文」（有馬家古文書），「太宰管内誌」等に肥前粗刀の名称がみえる。詳細は近刊予定の「有明町史」の中に，本遺跡と関連を持つ製鉄技術史的立証を述べている。

15．古田，諫見富士郎「布津木場の弥生遺跡（概報），昭和46年12月の緊急調査」，国見高校社研部報第9号，昭和47年2月，松川隆治「古代の葬送を地下にみる—布津木場原の発掘調査—」，島原工業高等学校新聞16号，昭和49年3月1日

**大野原遺跡調査団組織表**

| 役　職　名 | 調　査　団　氏　名 |
|---|---|
| 調　査　団　長 | 金　子　一　之（町長） |
| 調　査　副　団　長 | 宇　土　宗　人（助役） |
| 〃 | 菊　池　程　義（教育長） |
| 調　査　団　員 | 吉　田　安　弘（島原市文化財審議委員） |
| 〃 | 大　槻　　淳（総務課長） |
| 〃 | 浜　崎　　巌（産業課長） |
| 〃 | 木　下　康　博（建設課長） |
| 〃 | 伊　達　秋　信（教育次長） |
| 〃 | 宮　川　武　利（社会教育主事） |
| 調　査　担　当　者 | 古　田　正　隆（日本考古学協会会員） |
| | 諫　見　富士郎（日本考古学協会会員） |

# 写　真　図　（1～70）

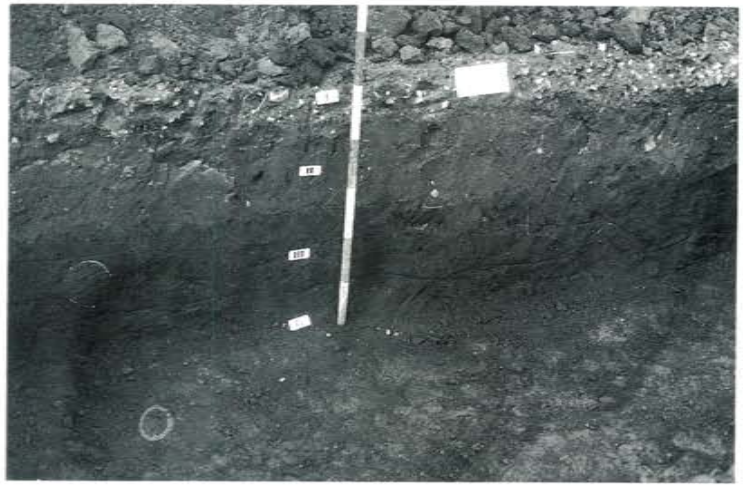
1～55　各トレンチとその内部（主として地層）状況写真

56～63　各遺物写真

64～67　出土遺物並びに参考写真

68～70　調査地の景

1. IT−1 トレンチ



2. IT−3 地　　層

3. IT−5 トレンチ

4. IT−5 地　　層

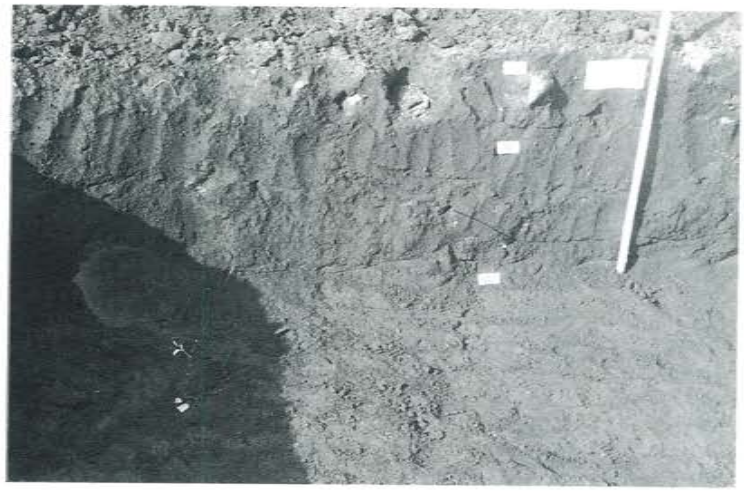
5．ＩＴ－８　トレンチ

6．ＩＴ－８　トレンチ地層

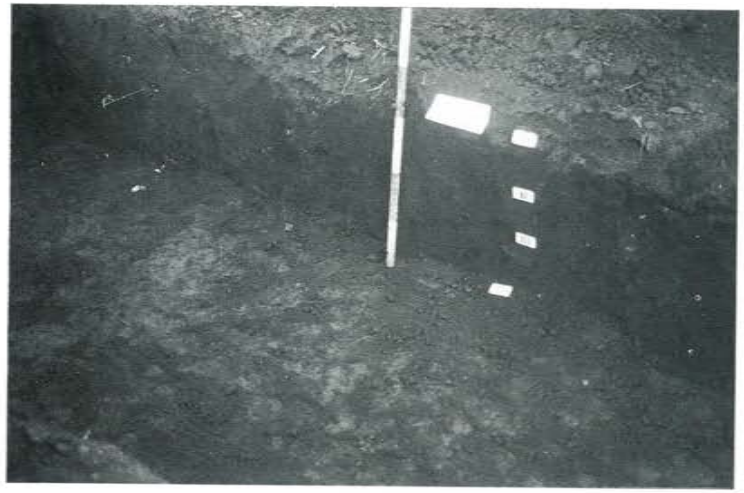
7．ＩＴ－８　５号甕棺出土状況

8．ＩＴ－８　５号甕棺出土状況

9. 2T—1 トレンチ

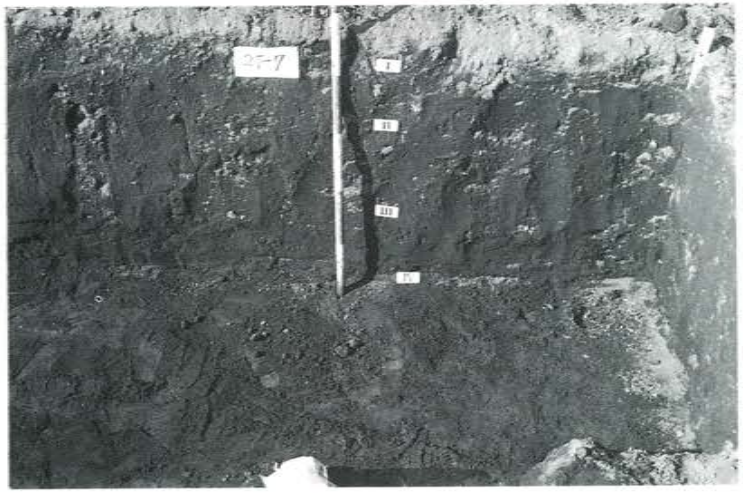


10. 2T—1 地　　層



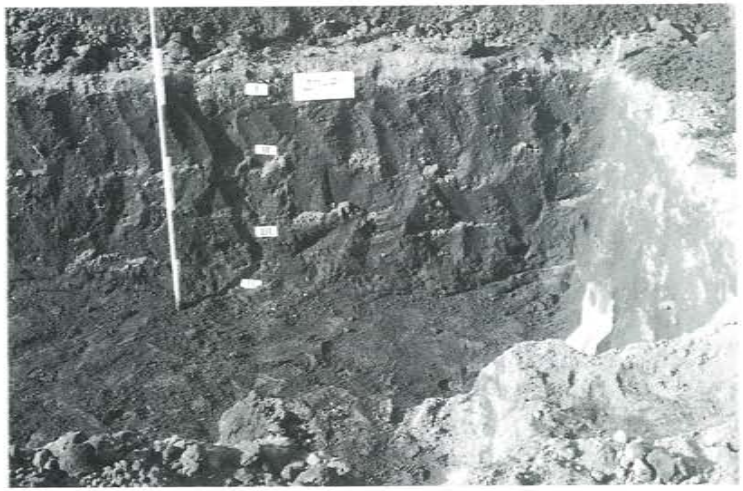
11. 2T—3 地　　層

12. 2T—5 地　　層

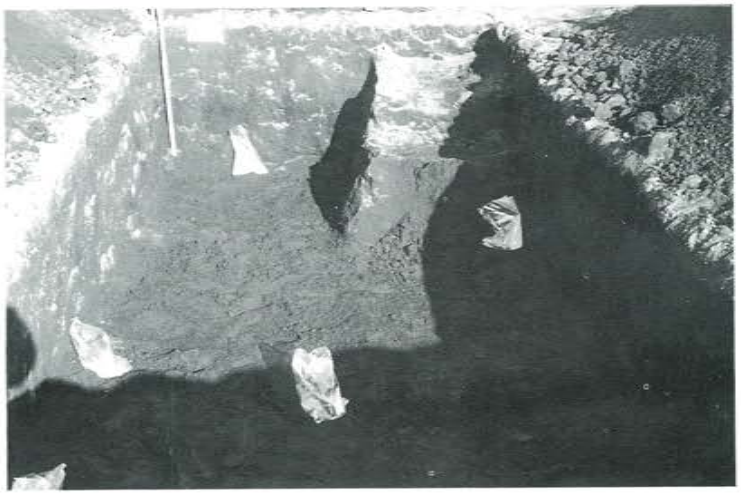


13. 2T－7　地　　層

14. 2T－7　トレンチ

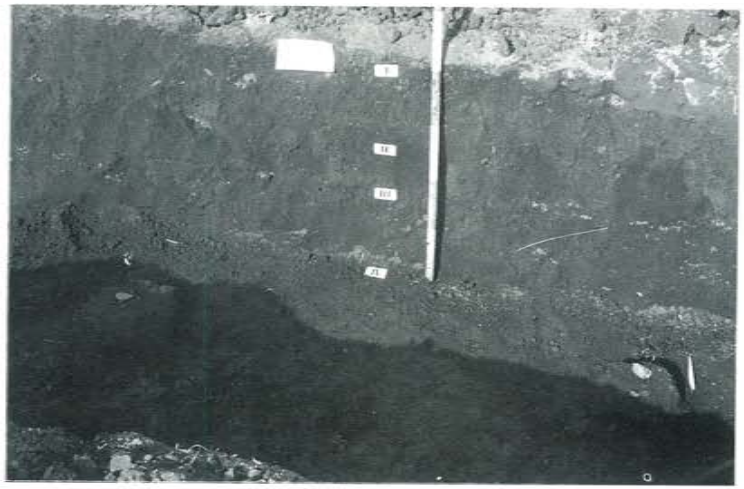


15. 2T－9　地　　層



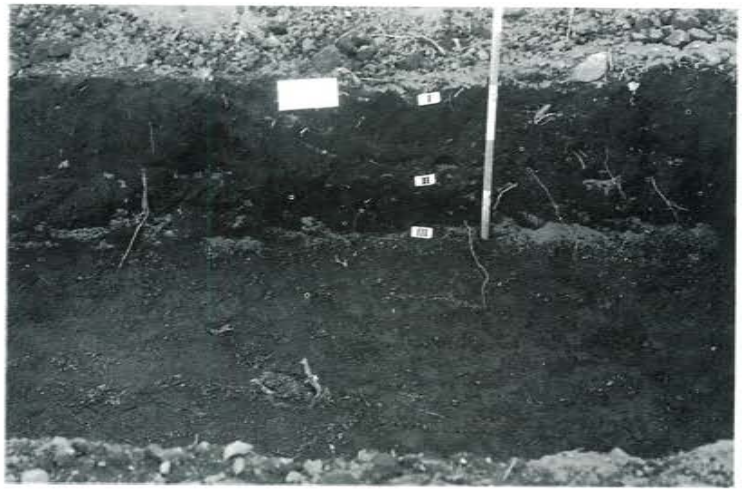
16. 2T－9　トレンチ

17. 3 T－1



18. 3 T－1 地　　層

19. 3 T－3

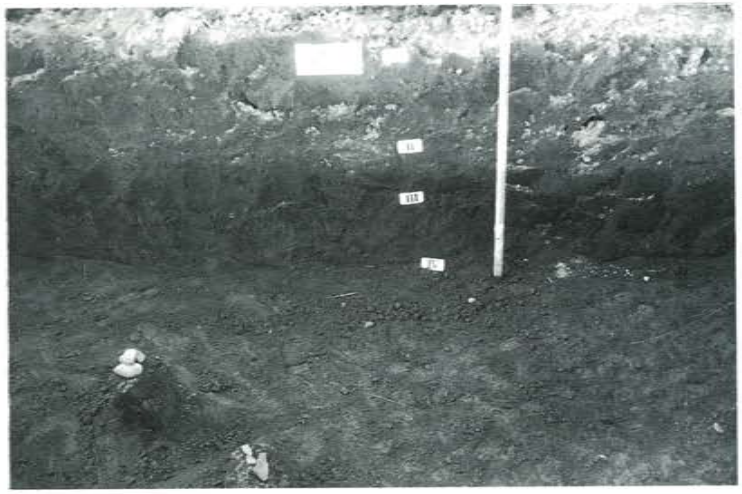


20. 3 T－3 地　　層

21. 4 T — 2

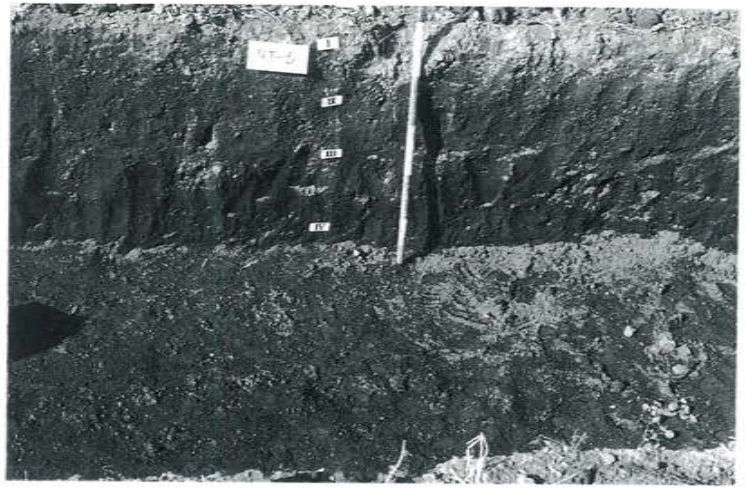
22. 4 T — 2 地　　層

23. 4 T — 4



24. 4 T — 4 地　　層

25. 4 T－6



26. 4 T－6 地　　層

27. 4 T－8 地　　層

28. 4 T－8 遺　　構

29. 4 T－8　遺物出土状況

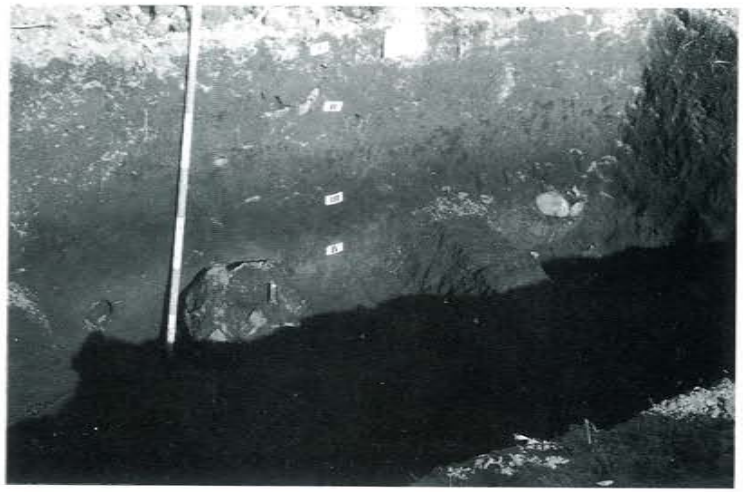
30. 4 T－10　トレンチ

31. 4 T－10　地　　層

32. 5 T－I

33. 5 T－I 地　　層

34. 5 T－3　I号甕棺出土状況



35. 5 T－3　I号甕棺出土状況（右は2号）

36. 5 T－3　1号甕棺出土状況

37. 5 T－3　3号甕棺出土状況

38. 5 T－3　1 号 甕 棺

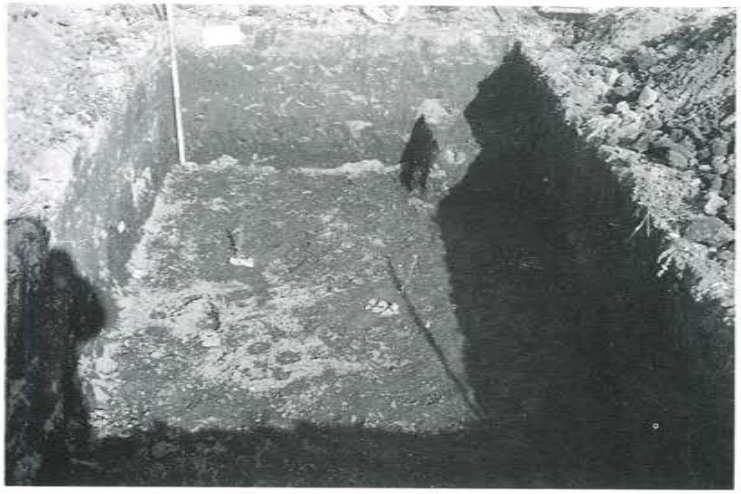
39. 5 T－3　1，2号甕棺取上げ後の土拡状況

40. 5 T－5

41. 5 T－7

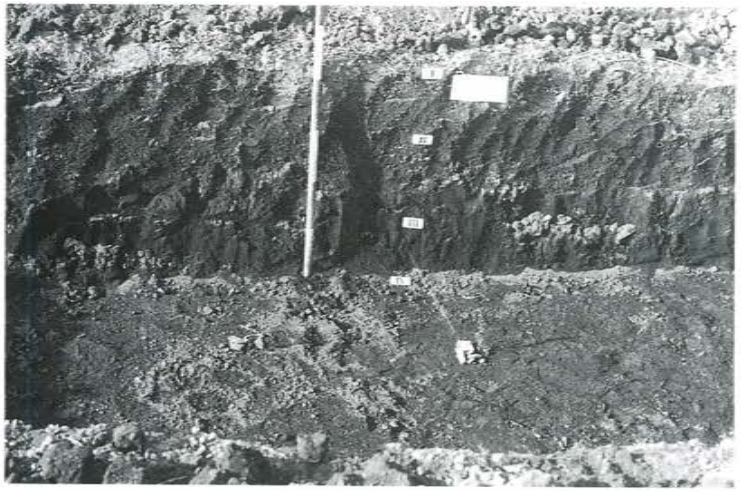
42. 5 T－7　地　　層

43. 5 T－7　遺物出土状況

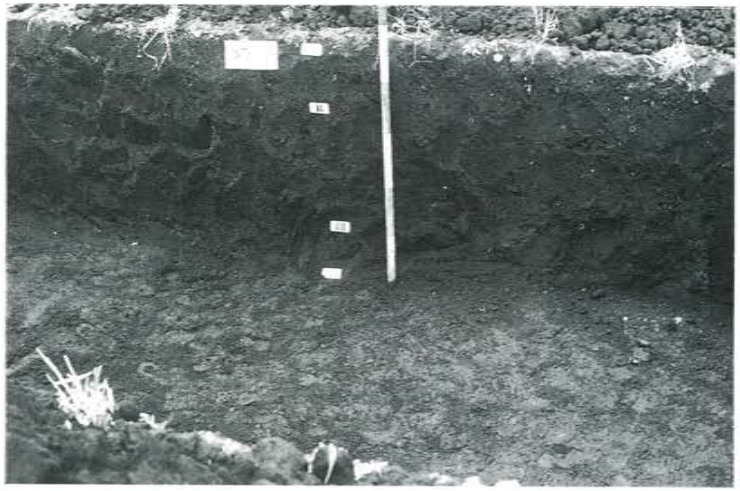


44. 6 T－2

45. 6 T－2 地　　層



46. 6 T－4 地　　層

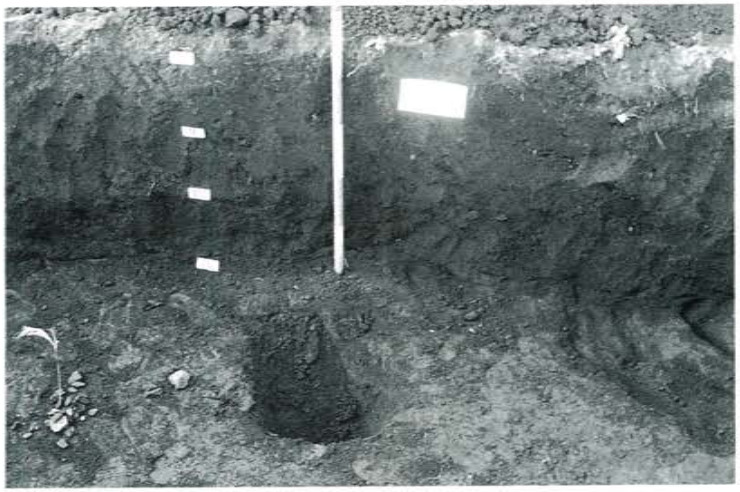


47. 6 T－6 地　　層

52. 6 T－3　遺物出土状況

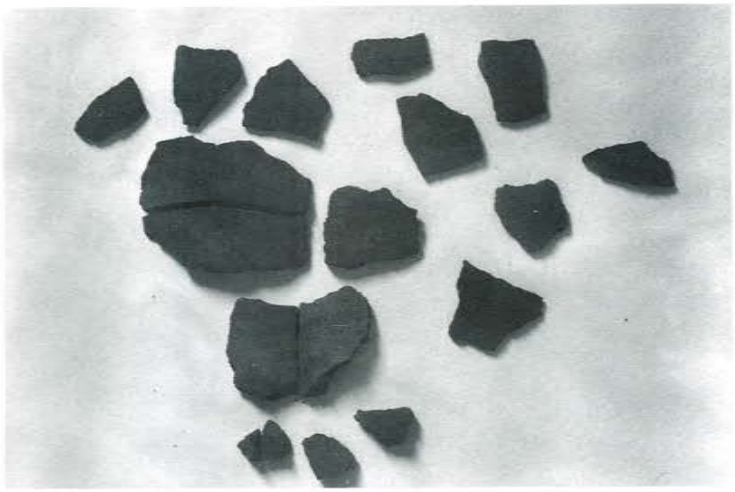
53. 6 T－3　遺物出土状況

54. 6 T－6



55. 6 T－8　遺構の状況

56. 1 号甕棺



57. 2 号甕棺

58. 2号甕棺下部

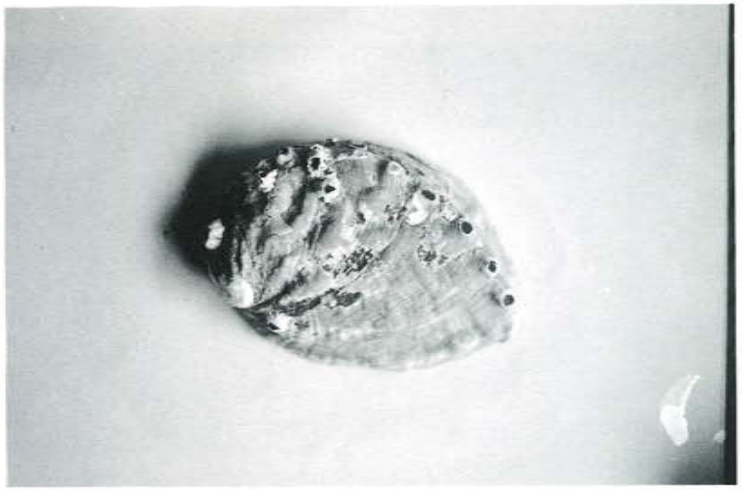
59. 上段左より 146-1，112-4，146-2　中段 112-1，123-1，132-1，131-2　下段 47

60. 3号甕棺とその近くより出土打製石斧

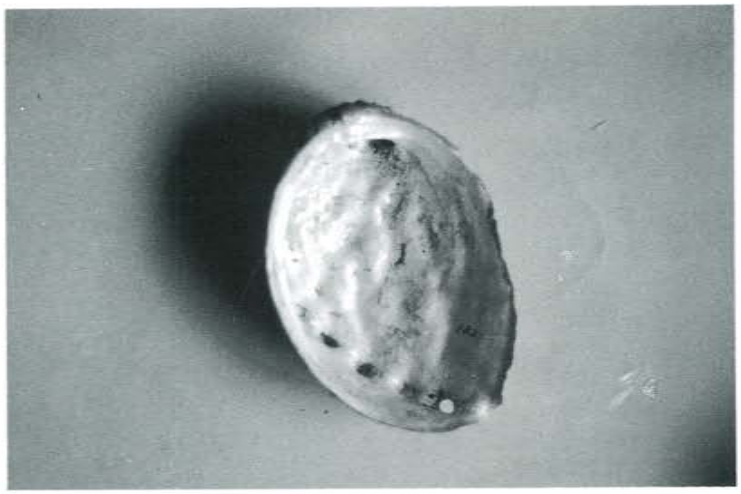
61. 上段左より 178-1, 178-2, 174, 177 中段 179, 178-4, 176-2, 178-1 下段 178, 177

62. 上段左より 3, 18, 14 中段 200, 5, 4, 10 下段 17

63. 上段左より 1-1, 131-1, 158-4 中段 112-3 下段 6-1, 6, 141-3



64. 5Tの埋葬遺構に共伴した鮑



65. 左同内部

66. 参考品，巻貝の石物，道祖神の乗っているもの

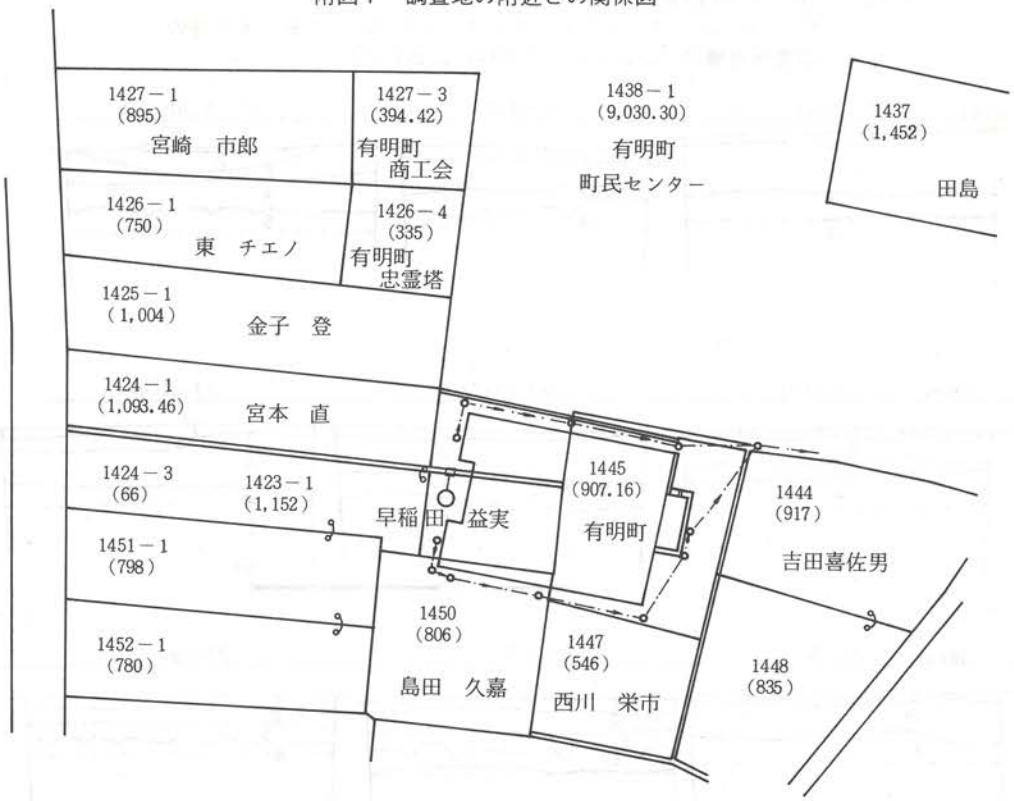
67. 左　　同

68. 調査地の全景

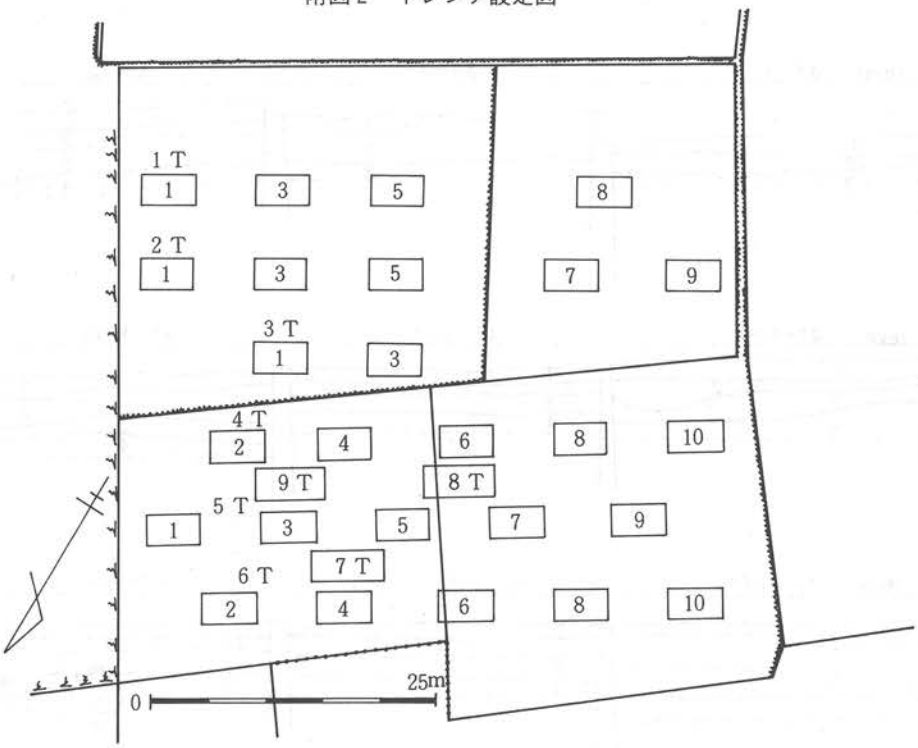
69. 調査地Ｉ～３Ｔ地区

70. 左　　同

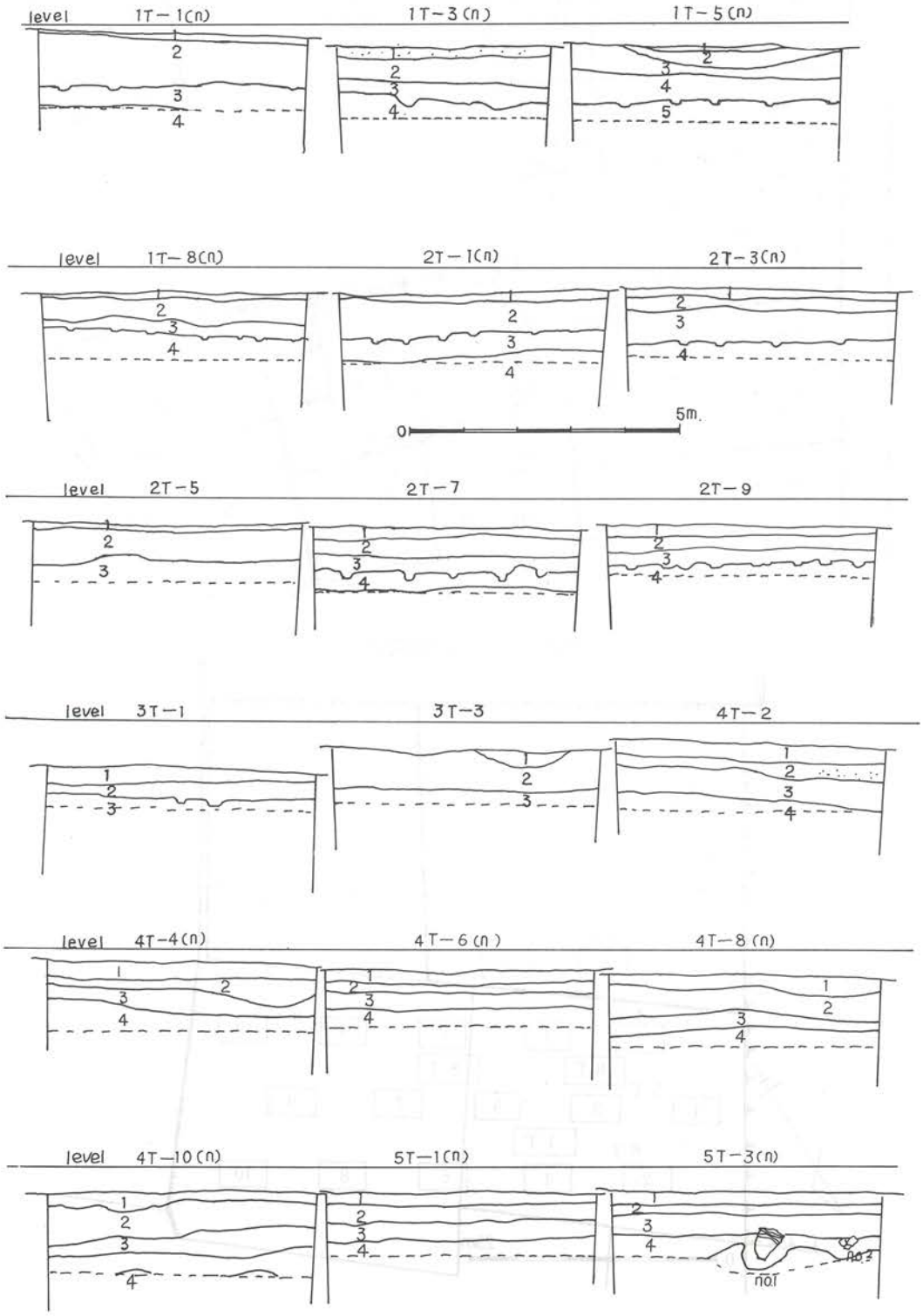
附図１　調査地の附近との関係図

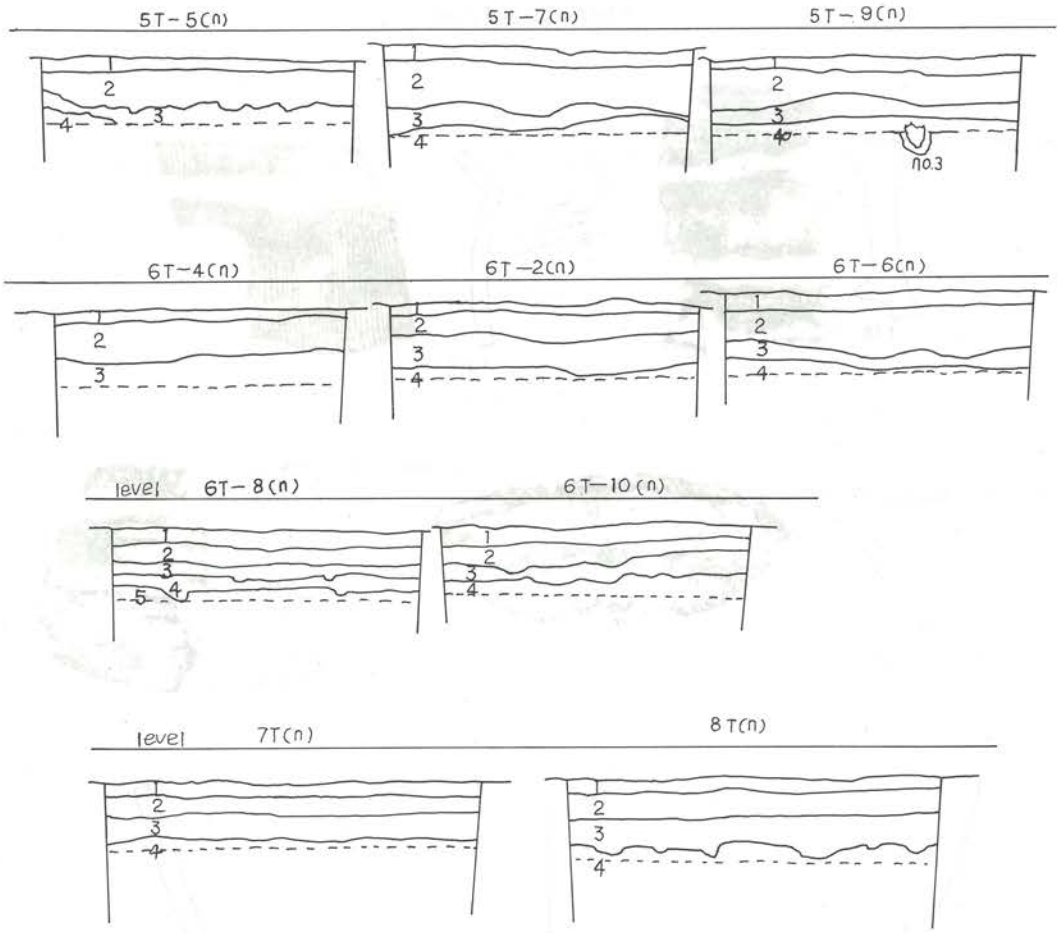



附図２　トレンチ設定図

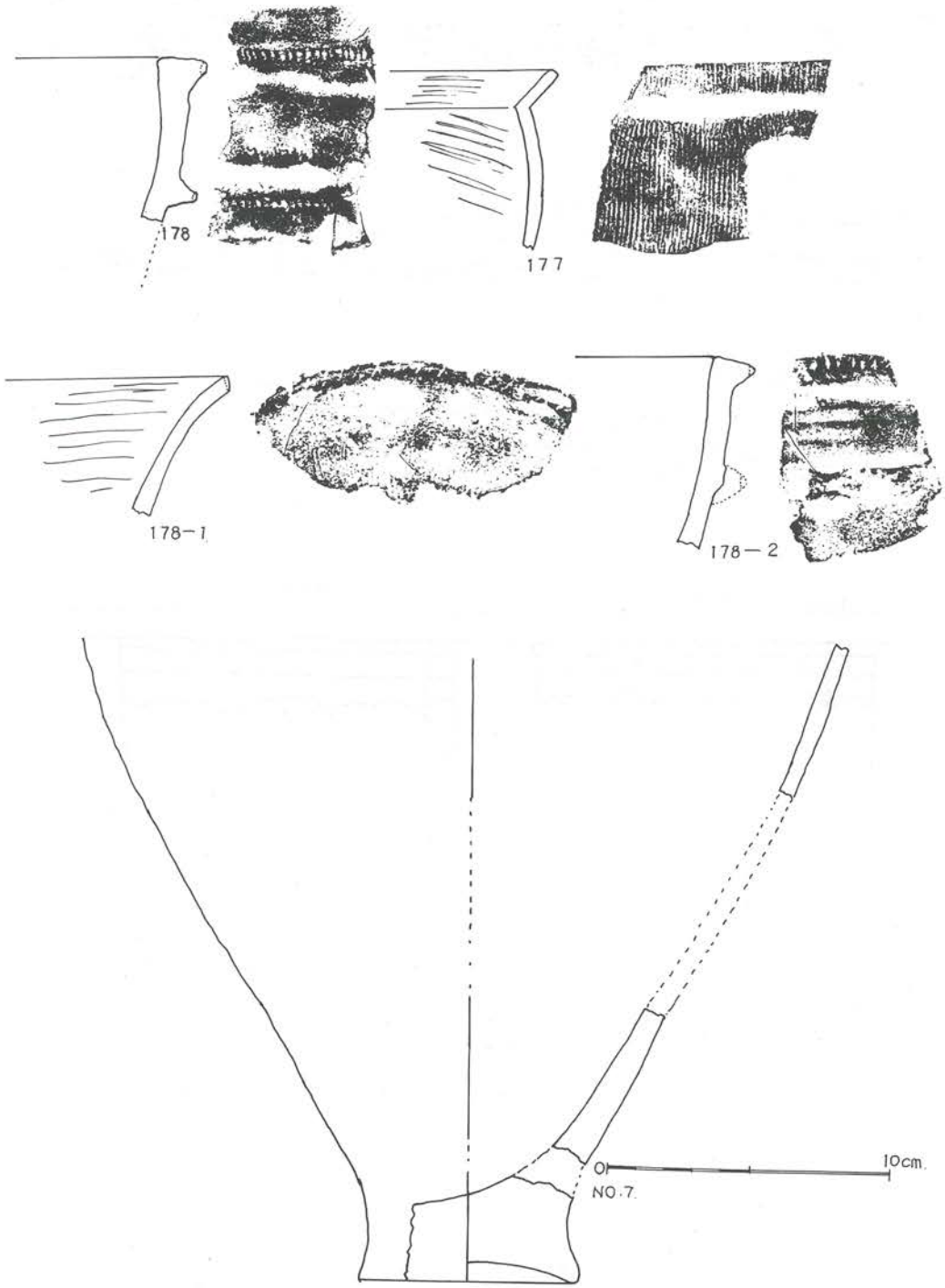


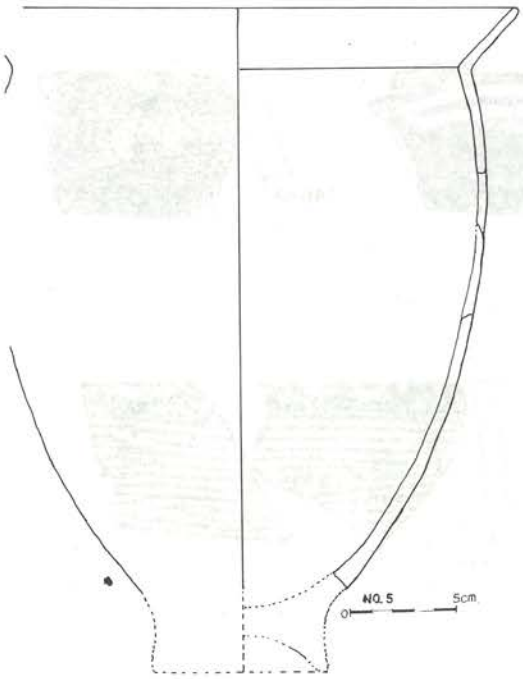
附図３　各トレンチ断面図
（１Ｔ５，１Ｔ３，２Ｔ１，２Ｔ３，２Ｔ７，２Ｔ９，８Ｔ等の
鋸歯状地層はトレンチャーの深耕によるもの）

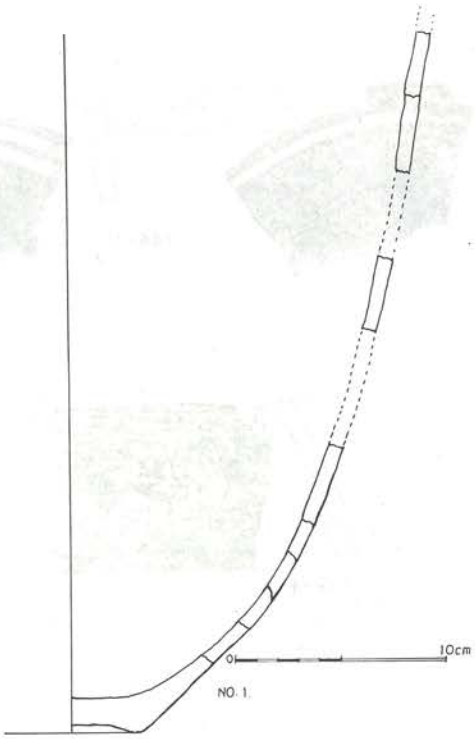


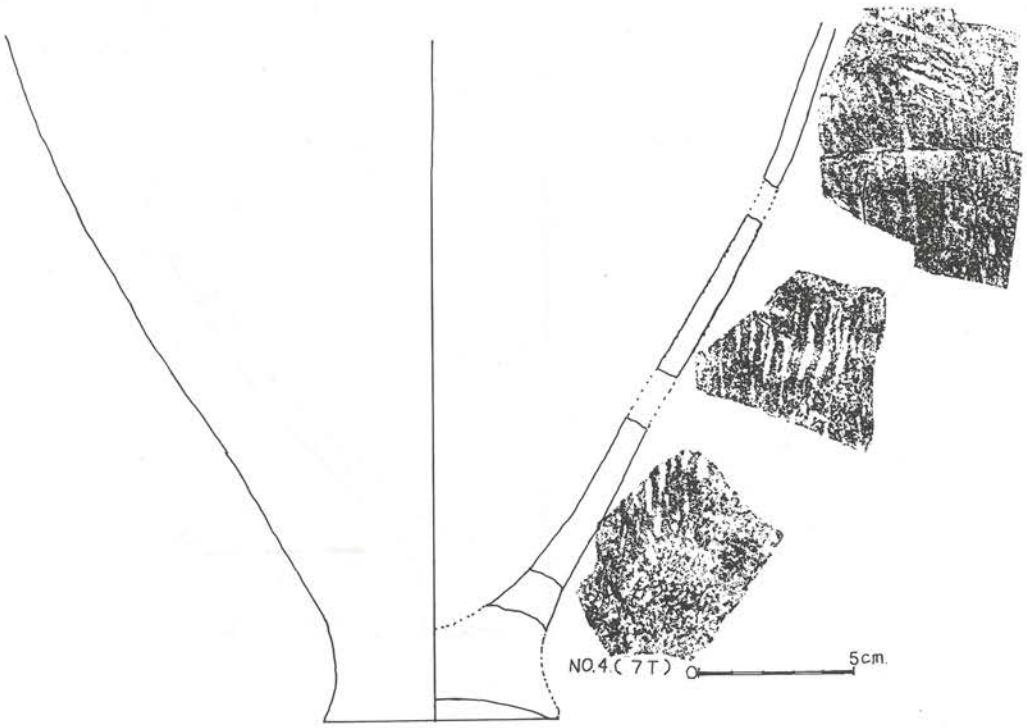

5T-5(n)
5T-7(n)
5T-9(n)
no.3
6T-4(n)
6T-2(n)
6T-6(n)
level
6T-8(n)
6T-10(n)
level
7T(n)
8T(n)

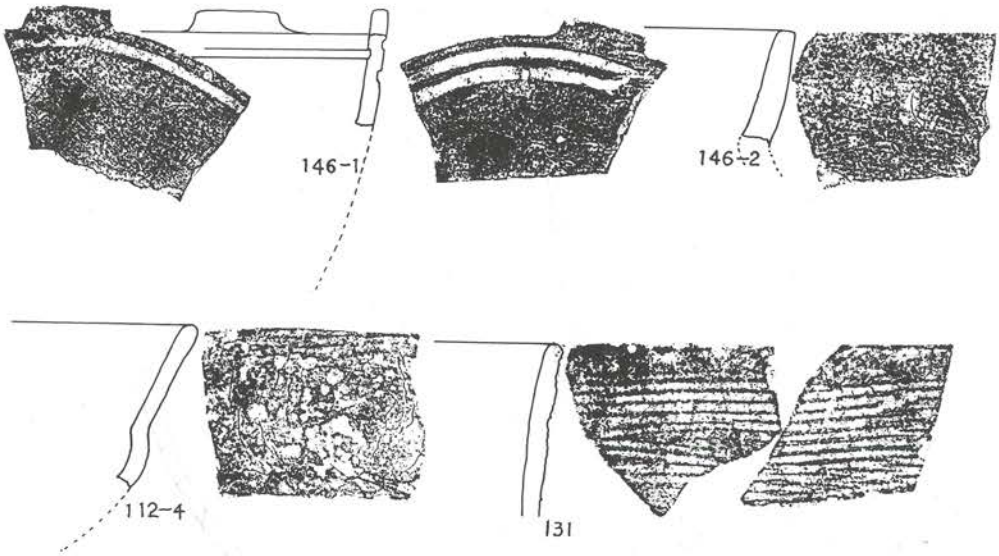
附図4　土器実測図

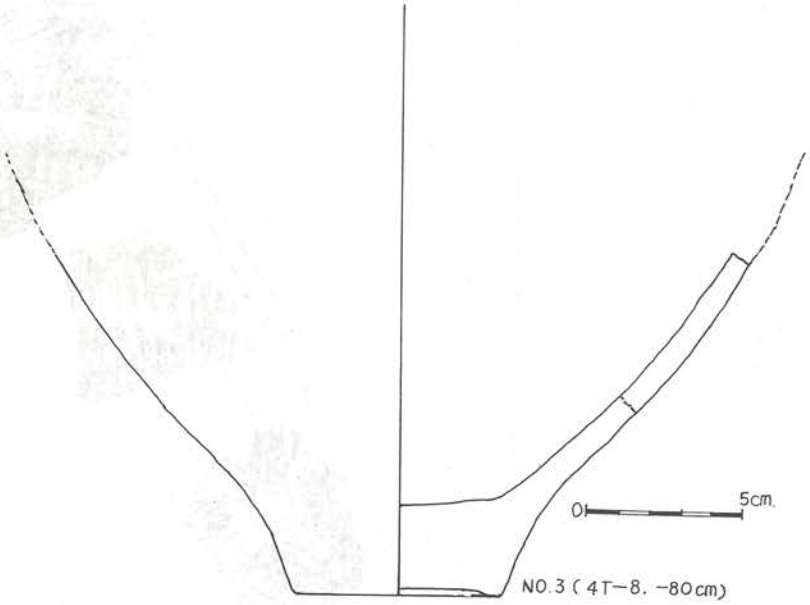


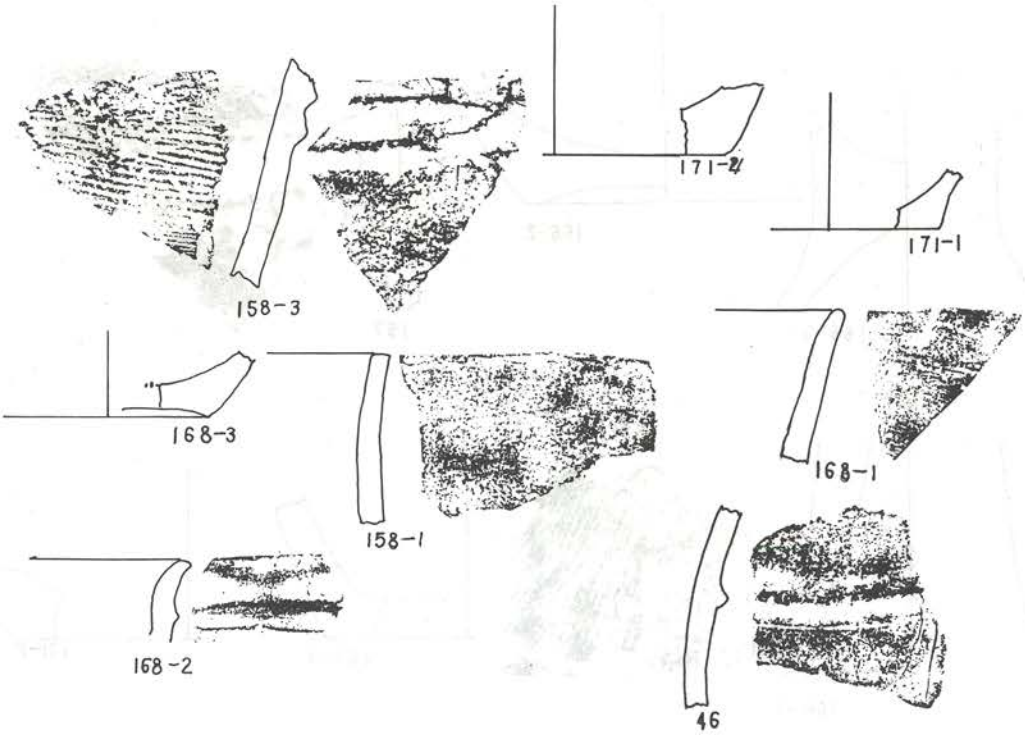

NO. 5
0
5cm

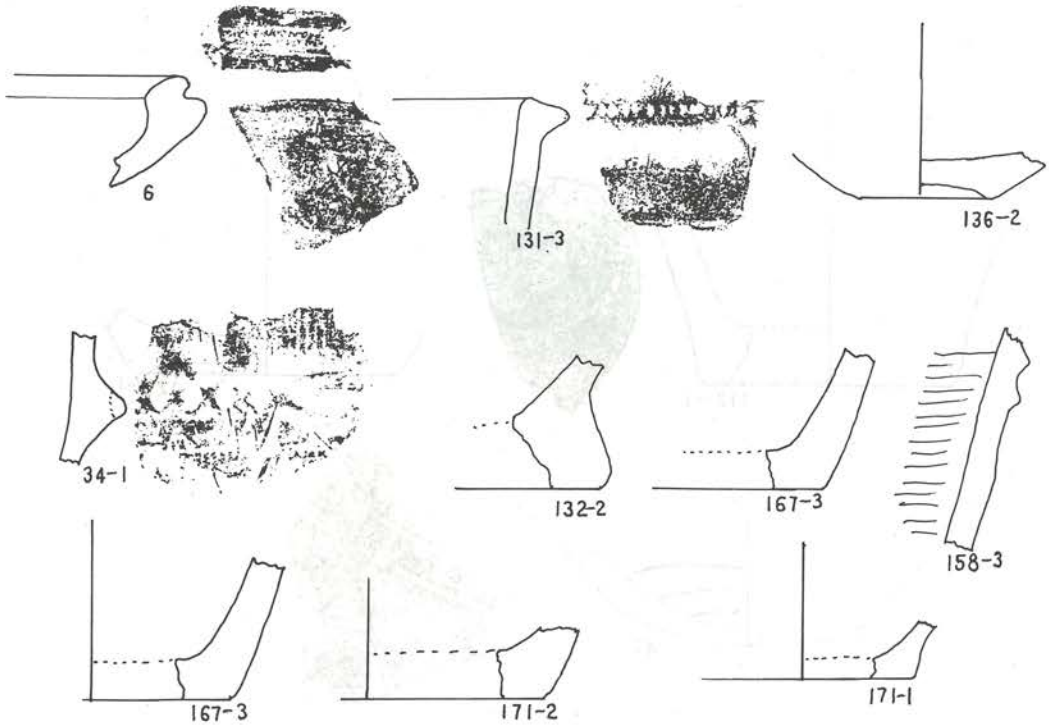

0
10cm
NO. 1.

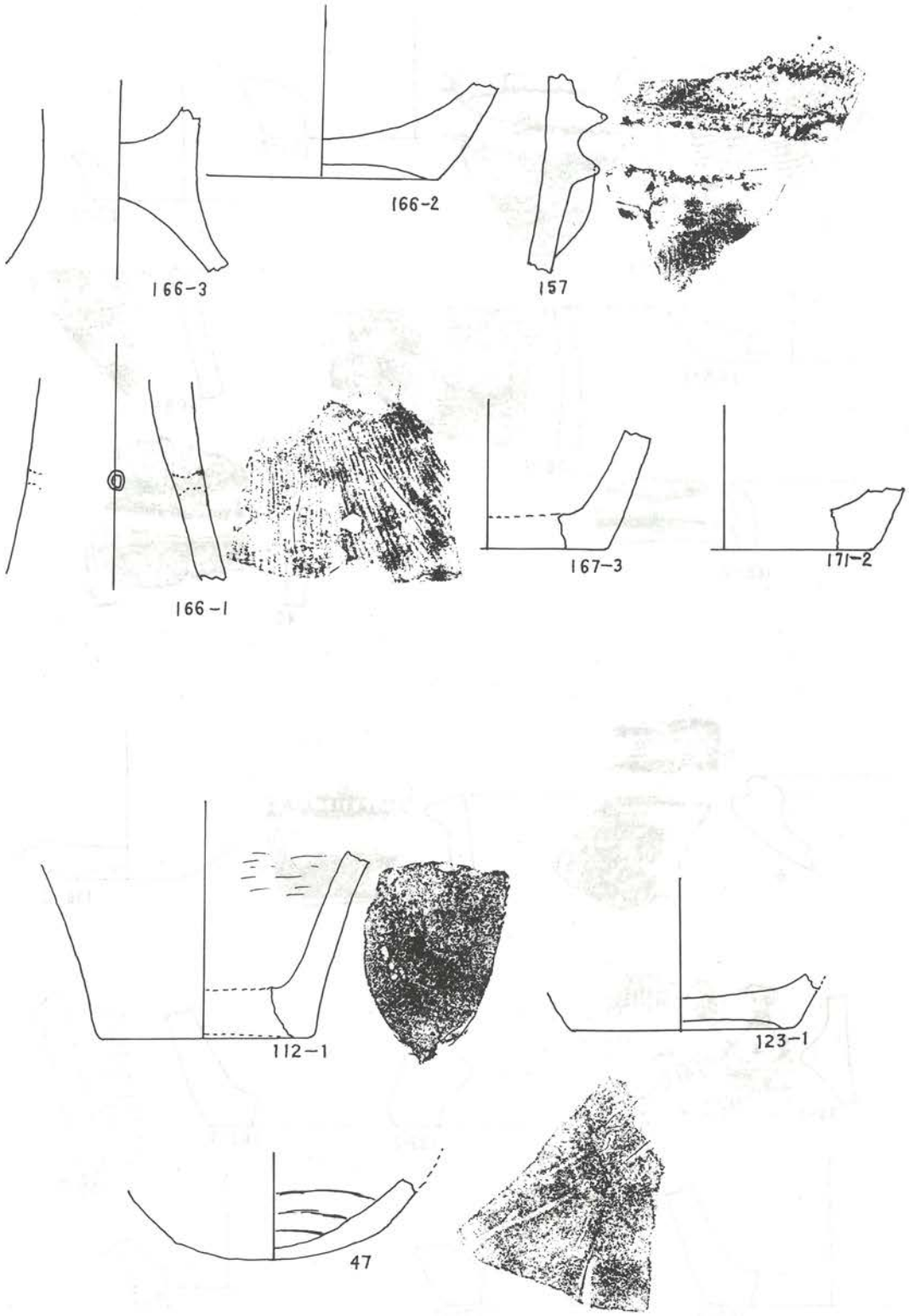

NO.4 ( 7T )
0
5cm.

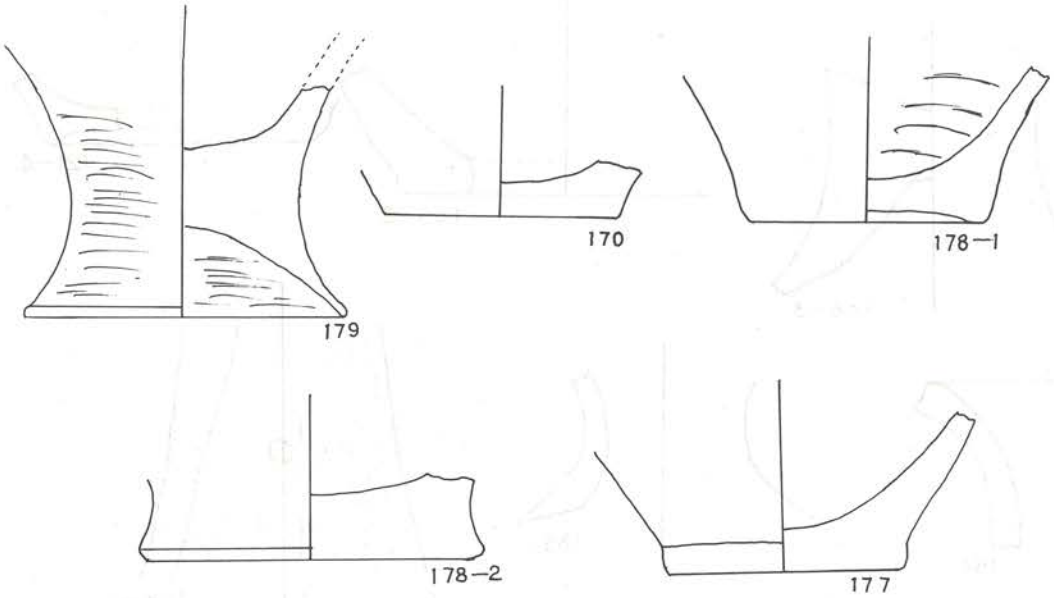

146-1
146-2
112-4
131

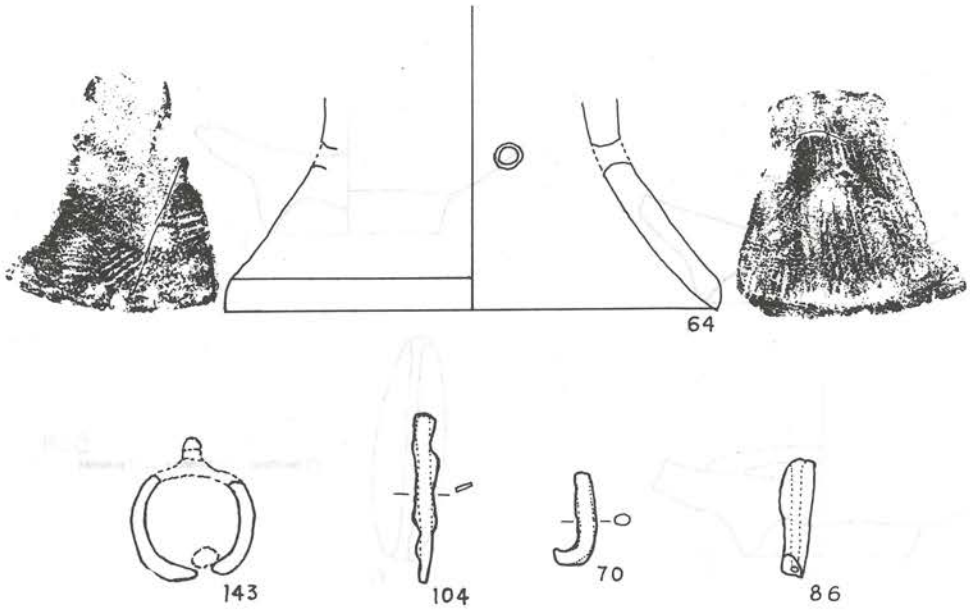

0
5cm.
NO.3 (4T-8. -80cm)

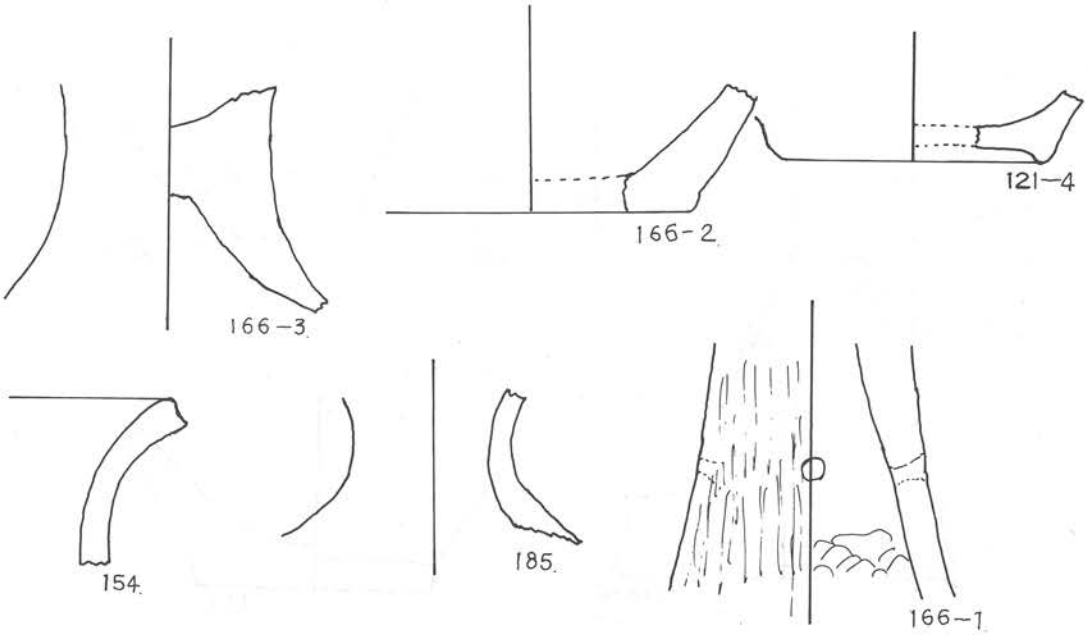

171-2
171-1
158-3
168-3
168-1
158-1
168-2
46

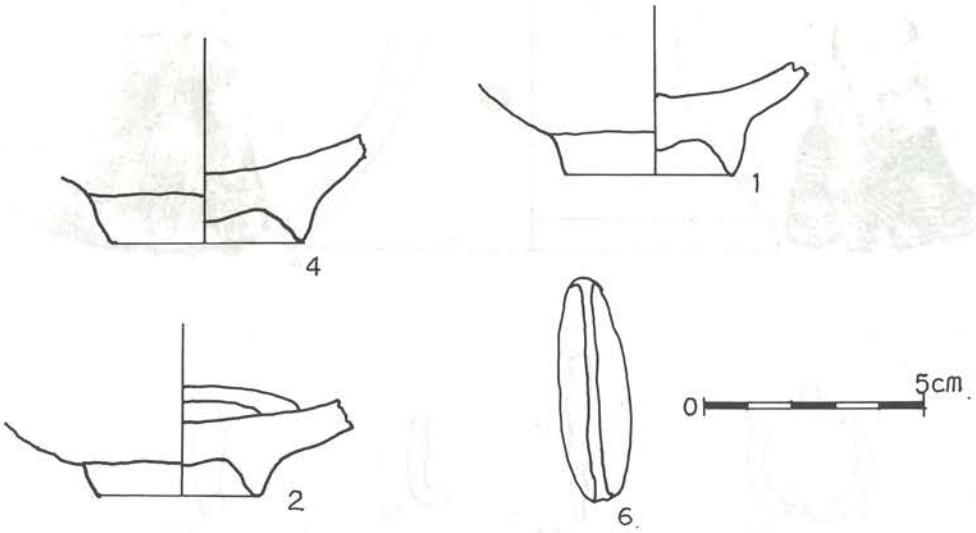

6
131-3
136-2
34-1
132-2
167-3
158-3
167-3
171-2
171-1


166-2
166-3
157
166-1
167-3
171-2
112-1
123-1
47

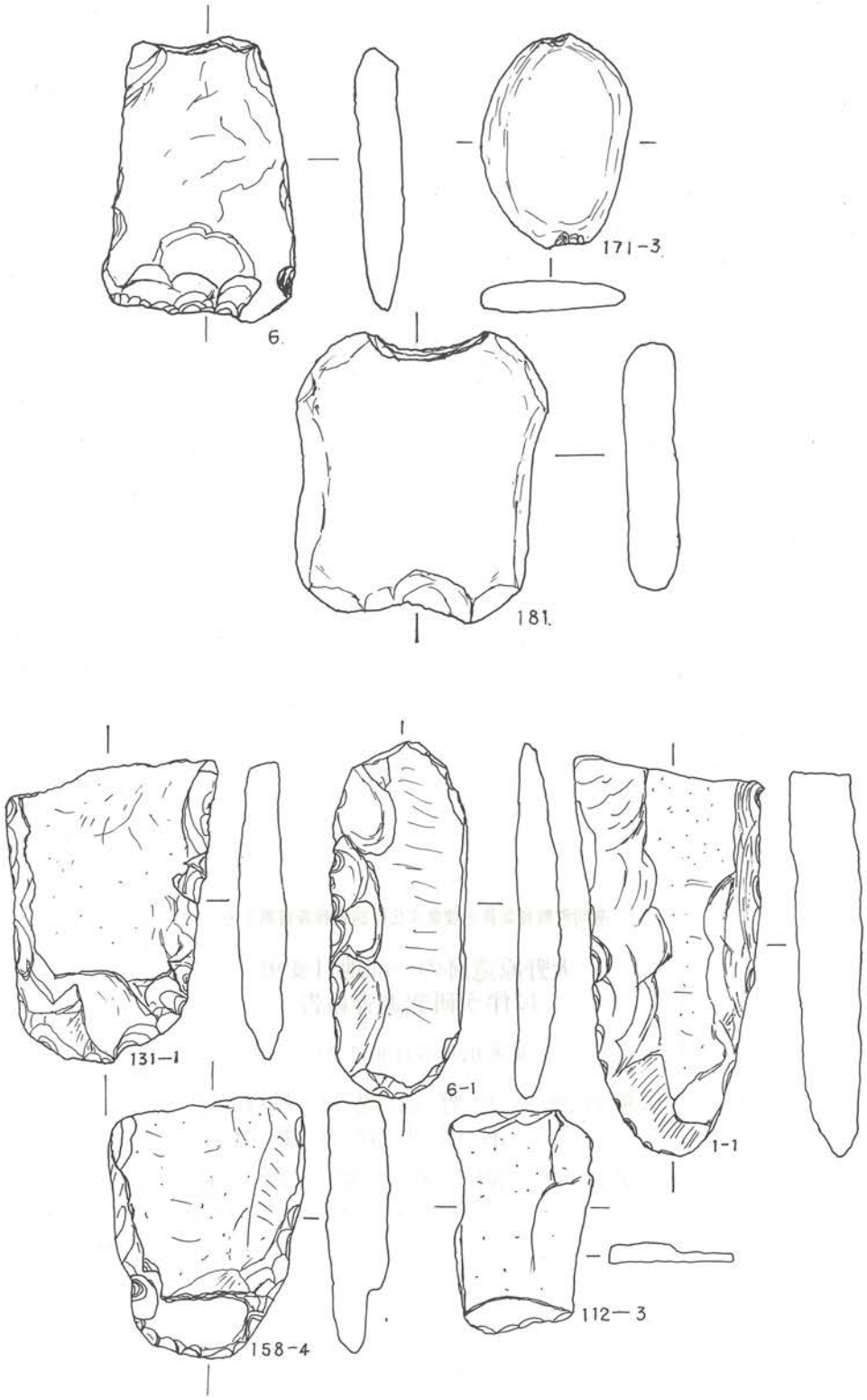

179
170
178—1
178—2
177


64
143
104
70
86


166-3
166-2
121-4
154
185
166-1


4
1
2
6
0
5cm

附図5　石器実測図



有明町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第6号

大野原遺跡の一部地目変更
に伴う研究調査報告

昭和61年6月30日発行

発行所　大野原遺跡調査団
有明町教育委員会

印刷所　昭和堂印刷
長崎県諫早市長野町1007